

- はじめに -

公益財団法人川崎市産業振興財団は 1988 年(昭和 63 年)に川崎市の出捐により設立されました。以来、「中小企業の経営支援」と「起業・中小企業の新事業創出、新分野進出支援」を 2 本の柱として事業の充実を図り、中小企業の総合支援拠点として川崎市産業の発展と地域経済の活性化を図るための様々な施策を展開しております。

平成 17 年 8 月には、世界に通用するものづくり企業の発展・育成を目的とした「コーディネート支援活動・出張キャラバン隊」を発足いたしました。大企業や研究機関、大学などが持つ知的財産と中小製造業が持つ技術の融合（産学官連携）支援を目的として、発足以来、延べ 3,000 件にもものぼる企業訪問を実施し、技術連携に向けたコーディネートを行っております。

また、財団の職員を中心として、研究機関、大学関係者、川崎市職員で構成される大学キャラバン隊は「顔の見える産学官ネットワーク」を作り上げ、川崎市内という枠を超えた企業同士の連携や大学との交流を促す産学官連携で成果を上げております。

日本経済を取り巻く諸問題（デフレ不況・財政難・少子高齢化等）、高成長する新興諸国が世界経済を牽引する構造は、川崎市の中小企業にも大きな影響を及ぼしています。

しかしながら、工業都市として 100 年を迎えた川崎の地で生きてきた企業の多くは、過去にも公害問題やオイルショック、バブル崩壊といった諸問題や経済危機を乗り越えてきた企業であり、厳しい冬の時代でも生き抜く手段を持ち合わせております。雪の下でもしっかりと根を張りつつ雪解けと同時に芽を出し、花を咲かせるための準備をしている「元気企業」は少なくありません。

当冊子は、そうした「元気企業」の成功要因、企業戦略、経営者の横顔、今後の展望などを紹介しております。いずれの企業も独自技術を活かした製品開発やサービス、新分野進出で著しい成果をあげており、まさに川崎を支える企業といえるでしょう。

最後になりましたが、本書の発行にあたり訪問取材にご協力いただいた企業ならびに関係者の方々に厚く御礼を申し上げます。

平成 31 年 3 月

公益財団法人 川崎市産業振興財団

モノづくり都市を支える川崎元気企業・・・・・・・・・・・・・・・・	4
-----------------------------------	---

掲載企業 14 社（五十音順）

1. 有限会社インディーズ・ジェイシー・・・・・・・・・・・・・・	6
国産にこだわり競技性とデザイン性を併せ持つ ダーツ製品の自社ブランド「L-style」	
2. 株式会社 大原商店・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8
落花生やナッツなど主原料にフルーツ粉末やチョコレートで味付けした豆菓子の提案	
3. 株式会社 カトウ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	10
若き 3 代目社長が進める改革が一步一步結実、得意の金属加工にさらなる磨きがかかる	
4. 北村彫刻 株式会社・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	12
微細な文字・記号の刻印にも対応！顧客の要求に応え続ける工業彫刻メーカー	
5. 有限会社 グリーンフーズあつみ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	14
行列ができる伝説のキムチ「おつけもの慶」	
6. サニー工業 株式会社・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	16
高架橋梁向けプラスチック製雨水排水管の 6 割を製作販売、自動車の安全走行に貢献	
7. 株式会社 信夫設計・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	18
電解コンデンサレス電源で LED 照明の圧倒的な長寿命化を実現	
8. 株式会社 末吉ネームプレート製作所・・・・・・・・・・・・・・	20
ネームプレートを作り続けて 96 年 次世代に向けたイノベーションに取り組む	
9. 株式会社 高橋製作所・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	22
「人速対応・精巧納品」。加工から組立まで地域ネットワークを活かした一貫体制で 顧客が納得するモノづくりを推進	
10. ちいさな伝記 株式会社・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	24
写真に込められた想いを残す一冊の宝物「ちいさな伝記®」と、 超高解像度 360° VR パノラマを制作	

- 1 1. 株式会社 ヒラミヤ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 6
建築家がイメージした空間デザインの実現を目的に「3D Architectural Lab®」創設
- 1 2. ポポロプラント 株式会社・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 8
熟練の技と最新デジタルツールを融合し、「魅せる」設計を追求する創業 50 周年
老舗プラントデザイン会社
- 1 3. 有限会社 マーク・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 0
名刺管理システムで特許取得 ICT Solution と DTP Solution で 1000 社以上の顧客を持つ
IT 系企業
- 1 4. ユニック産業 株式会社・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 2
製造力を結集した確実な動作のラベル剥離機で製品の安全表示に貢献

モノづくり都市「かわさき」を支える元気企業

日本経済は数年に渡って中国、ASEAN、北米市場の活況や半導体、工作機械、ロボットなどの産業機器の好調を背景に安定した成長を続けてきた。一方で、大手企業を中心に好決算が伝えられる半面、製造業などの中堅・中小企業での収益改善は思うように進まず、「実感なき景気回復」を印象付けている側面も否めない。米中貿易戦争や英国のEU離脱問題などの海外情勢の影響が懸念されるほか、今秋に予定されている消費税引き上げも景気後退の要因になりかねず、予断を許さない状況となっている。また、少子高齢化を背景とした人材不足が年々深刻度を増す中、技術・技能継承、事業継承が経営課題となり、政府が推進する「働き方改革」や「AI（人工知能）、IoT（モノのインターネット）の活用」への迅速な対応が求められ、人材育成、生産性向上への取組みが急がれている。

こうした中、川崎市では 2018 年度に「川崎市産業振興プラン 第 2 期実行プログラム」を策定、新たに取組を強化すべき課題として、市内産業を活性化する起業の促進、ベンチャー企業の創出・育成、中小企業者の事業承継支援、IoT・AI 等の新技術分野やライフサイエンス等の成長分野への支援体制の充実などを掲げて取組んでいる。産業振興に向けて構築した産官学による独自のネットワークを軸に、ハード、ソフト両面で企業活動を支え、ベンチャー育成等を通じた新たな産業創出に向けた動きが加速してきた。工業都市として培ってきたモノづくりの蓄積と進化する ICT（情報通信技術）を活かした地域活性化への取組みが地域経済に寄与する元気企業を生み出す原動力となっている。

モノづくりの蓄積と産官学ネットワークを活用した産業支援

川崎市は 151 万人を抱え、2030 年まで人口増が見込まれている唯一の政令指定都市である。工業都市として 110 年を超える歴史を持ち、モノづくりに関する有形無形の蓄積は分厚く、特有の産業構造が確立されている。その中核が世界的な大企業の立地とそれらを支える中小製造業の集積にある。臨海部の京浜工業地帯には素材・エネルギー産業、内陸部に電機、IT、機械の大手企業が進出し、市内全域にそれらを支えるサポートインダストリーと開発型中小企業が数多く生まれてきた。川崎市の強みはこの産業構造の多層化と市内外に立地する大学研究機関との有機的なネットワーク構築を可能にしているところにある。モノづくりの伝統と蓄積を活かすため、行政、大学、企業を結ぶ産学・産産連携を目指し、いち早く取り組み始めてきたことが成果に結びついてきた。市内企業への訪問活動を中心にした事業支援に加え、企業育成を狙ったインキュベートへの積極的な取り組みが独自の「川崎モデル」として全国の自治体からも注目を集めている。

その代表的な取り組みが中小企業と大学研究室を結び付ける「試作開発プロジェクト」であり、国、県、市の職員が連携して企業を訪問するキャラバン隊である。試作開発プロジェクトは大学の研究・実験機器の試作開発ニーズと市内企業のモノづくり力とのマッチングを目指したもので、多くの製品化が実現し、両者の垣根を低くすることで交流の輪が年々広がってきている。キャラバン隊では国や自治体の支援メニューの活用促進を狙ったもので、適切かつ迅速なサービスを展開し、中小支援のモデルケースとしても注目を集めている。

企業のポテンシャルを引き出す知財マッチング

ここにきて新たな展開を見せているのが「知財マッチング」事業である。川崎市に本社や研究機関を置く大手企業の開放特許などの知的財産を中堅・中小企業に紹介する取組で 10 年以上の実績があり、中小製造業の経営に貢献する事例を多数生み出してきた。この事業をさらに推進するため定期開催している交流会に新たにクリエイターがプレゼンターとして参加し、特許の活用のアイデアが浮かばずに苦労している中小企業の手助けを行う取組みをスタートさせた。川崎市の知財マッチングは大手企業から中小企業への業務発注という形でなく、中小企業の持つ技術を大手企業にアピールし、双方向でビジネスを進めていく対等な関係性を重視している点にある。クリエイターの参加は両社の結びつきをさらに促進させることが目的で、知財活用に向けたアイデアの提案を行うことでマッチング精度や製品化のスピードを向上させることが狙いとしている。全国に 8 万人のクリ

エーターが登録するクリーク・アンド・リバー（C&R）と連携し、知財や製品の種類に合わせて最適なクリエイターを選定して大手企業、中小企業へのプレゼンテーションを行うことで知財活用のイメージをわかりやすくしてビジネス化を加速させていく考え。すでに川崎市のほか、静岡県富士宮市、山形県の米沢市と高島町、福島県が参加し、全国的なネットワークの構築にも進みだしている。

新たな産学交流・研究開発施設「AIRBIC（エアビック）」を開設

こうした産官学の連携に加え、川崎市の大きな特徴として全国的に知られているのがベンチャー企業の育成への取組みである。川崎市産業振興財団の主催する「かわさき起業家オーディション ビジネス・アイデアシーズ市場」は隔月に開催される常設のビジネスオーディション。全国からビジネスアイデアを募り、優秀な事例にはインキュベーション施設への入居優遇措置を図るなど支援活動を展開し、起業家の登竜門として知名度も高い。

また、インキュベーション施設の充実も大きな特徴だ。神奈川県、川崎市などが出資し、1989年に設立したかながわサイエンスパーク（KSP）はインキュベーション施設の日本での草分けである。JR 新川崎駅近くにある新産業創出拠点「新川崎・創造のもり」には川崎市、川崎市産業振興財団らによる川崎新産業創造センター（KBIC）に加えて、2019年1月からは新たに産学交流・研究開発施設「AIRBIC（エアビック）」を開設。インキュベーション施設のスペースは合計約 3500 m²あり、KBIC など隣接施設と合わせると約 7,000 m²と全国的にも最大規模のインキュベーション拠点となっている。このほかに JFE が運営するテクノハブイノベーション川崎（THINK）をはじめ川崎市商工会議所、明治大学生田キャンパスなどが市内に点在しており、500 社を超える数多くのベンチャーを輩出している。

さらに川崎市と新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）が連携し、ベンチャー発掘から企業立ち上げまでのワンストップ支援拠点「Kawasaki-NEDO Innovation Center (K-NIC)」を2019年3月に設立。起業経験者、投資家、知的財産やマーケティングなどさまざまな専門家による相談窓口をはじめ、NEDO と川崎市の各種支援事業の相談窓口、ピッチイベントや交流機会の機能を集約した。起業家を次々に生み出す好循環の仕組みを構築し、イノベーションの創出による経済の活性化や雇用の拡大を目指している。これにより市内のインキュベーション施設への支援も強化し、新たな産業や雇用の創出、国際競争力のあるベンチャー企業育成に弾みをつけていく。

流通大手と連携し、中堅・中小の販路開拓を支援

川崎市では市内企業の販路開拓支援も強化している。企業のマッチングを進める一方で出口となる販売面を確保し、ビジネスを軌道に乗せるのが狙いだ。第1弾としてイトーヨーカ堂とセブン&アイ・クリエイトリンクが運営する複合商業施設「グランツリー武蔵小杉」（川崎市中原区）で、市内中小企業が開発・製造した一般消費者向け製品の販売を開始。市内企業が協力して期間限定のイベントや常設展示を行うなど取組みが具体化している。さらに川崎市と「産業連携に関する基本協定」を結ぶ、静岡県富士宮市や山形の企業など他県からも参加し、商品のバリエーションも広げている。事業支援では開発や生産など供給側に重点が置かれ、販路確保などの取組みはあまり進んでおらず、市場開拓に向けた課題となっている。こうした大手流通とのネットワーク化によって企業と消費者を結び、市場が求める製品開発へと寄与できる仕組みの構築が期待されており、モノづくりからサービス、販売へとさらなる支援の広がりが地域産業の育成に大きく寄与してくると見られる。

川崎元気企業調査報告書
挑戦する川崎の企業家たち

編集・発行
公益財団法人 川崎市産業振興財団 事業推進課

〒212 - 0013
川崎市幸区堀川町 66 番地 20 川崎市産業振興会館 6 階
電話 044 - 548 - 4115

平成 31 年 3 月発行
(無断転載・複写を禁じる)